

BBS会会長賞

堺市立 旭中学校 三年

白木 琴子

三人寄れば文殊の知恵

みなさんは「三人寄れば文殊の知恵」ということわざを知っているだろうか。一人では解決できなくても、何人かで考えれば解
決できるという意味をもつことわざだ。この考え方が、社会
を明るくするために必要なことではないだろうかと考える。

このように考えたのは、一つの事件がきっかけだ。ある日、私
が何気なくニュース番組を見ていたところ、「虐待」についての報
道がされていた。その内容は、親が自分の子供に、日常的に暴力
を振るい、拳句の果てには殺害したというものだった。私は犯し
た親に対して嫌悪感を抱いた。なぜなら、毎日そのような環境に
いない私にとってすごく衝撃的なことであり、恐ろしいことであ
ったからだ。しかし、犯した親の供述を聞いたとたん、嫌悪感は、
疑問へと変っていった。その供述とは「子供が産まれてからずつ

と一人でしんどかった。」「頼る人も頼る場所もなかった。」とい
う内容だった。前堤として、この罪は決して許されることではない。
しかし、「頼る人、頼る場所がなかった」という点に関しては、犯
人の罪なのだろうか。いや、そうではない。私は周りにも罪があ

るのではないだろうかと考える。最初に述べたように、「三人寄れ
ば文殊の知恵」のように、犯人だけでなく周りの人たちも母親と
一緒に考えることができれば、母親の悩みは解決したのではない
だろうか。母親は、一人で子を育てていかなければならないとい
う責任にとらわれて、誰にも相談することができず、一人だと感
じてしまったのではないだろうか。では、どうすればよかった
のだろうか。私はこの事件の解決策にひめられていることこそが、
社会を明るくするきっかけにもなると思う。それは一人一人が持
つ意識と、そこから生まれる社会全体のつながりだ。

私達は日々、自分自身について考えることに集中してしまっ
ている。しかし、ふと周りをみてみると苦しんでいた、悩んでい
る人がいるのではないだろうか。そこで私は、「三人寄れば文殊の
知恵」ということをわざを一人一人の意識としてとりいれてほし
い。互いに考え合い、支え合う意識を持つことで、一人では解決
できないことも、解決できる。また、このことが社会全体のつな
がりをつくるきっかけにもなるのではなだろうか、そうすれば犯

人も、もっと周りの人たちを頼りやすかったのではないだろうか。またこのことは、今回の事件だけでなく、様々な犯罪や非行、更生することについても、「三人寄れば文殊の知恵」はあてはまることだ。こうした取り組みの一つ一つが社会を明るくするのだと思う。

このような「三人寄れば文殊の知恵」を意識し、心がける人が増え、今後こまったときに、頼る人、頼る場所がないという人が一人でも少なくなり、たくさんの人達が笑顔で毎日を過ごしていただけるような、明るい社会が来る日を私は強く強く願っている。

